

くらしの目線で市政を変える

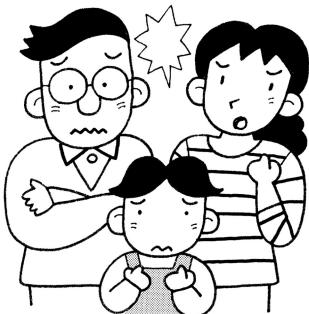
# こんにちは 日本共産党 京都市会議員 西野さち子です！

発行：2020年2月23日 連絡先：京都市伏見区新町10丁目381 日本共産党伏見地区委員会 Tel:075(611)9135 FAX:075(602)9117



# 京都市「2020年度予算案」発表

## 「暮らし切り捨て、大型開発」相変わらず



2020年度の予算案が発表されました。一般会計7,840億円、特別会計6,281億円、公営企業会計2,725億円、全会計で1兆6,845億円となっています。

この予算案は、事業の見直し（40億円）として夏季歳末特別生活資金貸付事業の廃止を打ち出すなど、暮らしの願いに背を向けるものです。また、国の「地方創生総合戦略」を率先して推進、市営住宅・学校跡地の民間活用、さらなる職員削減や公務の民営化が打ち出され、これらは自治体としての公的責任を投げ捨て、市民生活を破壊するものです。ところが「財政が厳しい」と言いながら、リニア新幹線や北陸新幹線などを推進するとしています。消費税増税が強行され、社会保障改悪が進められる中、市民のいのち・暮らし、中小企業を守る自治体本来の役割發揮が求められます。

市長選挙直後にも門川市長は「誰一人取り残さない」と言いながら、今回提案された予算案は、弱者切り捨ての内容が目立ちます。特に、夏季や歳末にボーナスなどの一時金がない世帯に対して、無利子で貸し付けられていた夏季歳末特別生活資金貸付事業が廃止される提案です。また、醍醐地域など市バスが走っていない市周辺部のバス待ち環境改善などにされていた民間バスへの支援が、名前は同じでも中身がバス運転手確保に変えられています。「生活資金貸付事業」は、1人3万円までと少額ではありますが、「助かった」との声も聽かれ、生活保護を受けられない世帯への支援になってきました。弱者切り捨ての市政に対し、福山和人さんが市長選挙で提案された、暮らし応援の市政を実現するために力を合わせましょう！



## 有料化財源（家庭ごみ指定袋代）について

来年度の有料化財源の活用額は、環境局が14億1330万円で、環境局以外に使われるのが1億970万円、環境ファンドへの積立が7000万円となっています。環境局の活用の中で大きいものは東北部クリーンセンターの大規模改修2億2570万円、南部クリーンセンター環境学習施設運営7130万円などです。

環境局以外の活用では、既存住宅の省エネリフォーム支援事業や森の力活性・利用対策などがあります。合計15億9300万円の活用が提案されています。指定袋の製造、保管、運送などの必要経費は6億1900万円ですから、袋代の値下げは十分可能ではないでしょうか。

## 敬老乗車証予算が提案されました

来年度予算の中で、注目されていた敬老乗車証に対する予算が、今年度より3億円増で提案され、皆さんのが市長の改悪提案をまた押し返しました。しかし、まだ京都市はあきらめたわけではありません。引き続き声を届けましょう。

## 東部クリーンセンター跡地地活用

例年と同じく事務経費として10万円が計上されています。数件の問い合わせがあるようですが、話はまとまっているとのことです。

売却ではなく市民の為の活用が必要です。



## 伏見区醍醐陀羅谷への産廃処分場計画ゆるさない!! 党議員団が連携



2月5日、伏見区醍醐の陀羅谷地域へ。住民の声と共産党的議論戦で何度もストップさせてきた「産廃最終処分場計画」。昨年秋頃から周辺での産廃持ち込みやトラック目撃情報が相次いでいるため、あらためて現場調査を行いました。京都市・宇治市・大津市の境界で起こっている問題であることから、京都府議団・京都議団・大津市議団が連携し取り組んでいます。豊かな自然環境・住環境を守るために引き続きがんばります。